

溝上慎一の教育論(動画チャンネル) No372
(新著の紹介)

学習科学から見ると、主体的・対話的で深い学び、探究的な学習は
どのように説かれるかー『授業づくりと授業研究に活かす学習科学
入門』から 河野麻沙美先生（上越教育大学准教授）

溝上 慎一 Shinichi Mizokami, Ph.D.

学校法人桐蔭学園 理事長
桐蔭横浜大学 教授

学校法人河合塾 教育研究開発本部 研究顧問
東京大学大学院教育学研究科 客員教授

<https://smizok.com/>
E-mail mizokami@toin.ac.jp

【プロフィール】1970年生まれ。大阪府立茨木高校卒業。神戸大学教育学部卒業、1996年京都大学助手、講師、准教授、2014年教授を経て2018年に桐蔭学園へ。桐蔭横浜大学学長（2020-2021年）。京都大学博士（教育学）。

*詳しくはスライド最後をご覧ください

※本動画チャンネルは溝上が個人的に作成・提供するものです。

※公益財団法人電通育英会の助成を受けて行われています。

※本動画では字幕を付けていませんので、必要な方は「設定」で「字幕オン」にしてご利用ください。

(ご紹介)



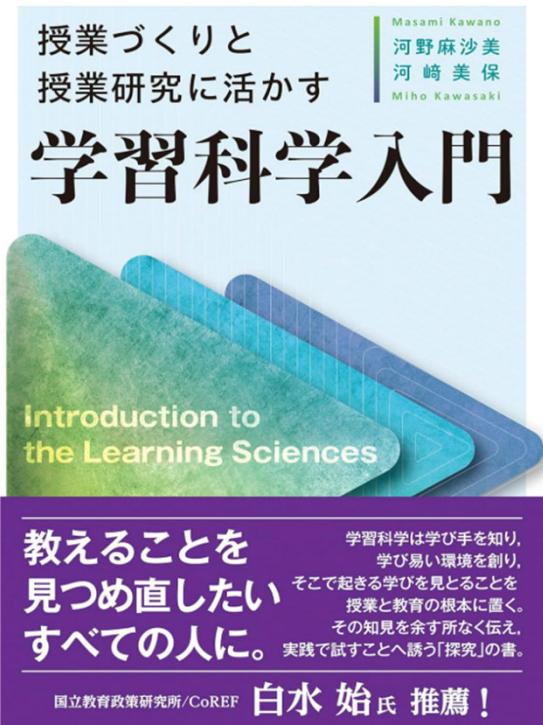
河野 麻沙美
かわの まさみ

上越教育大学大学院学校教育研究科・准教授

静岡大学大学院教育学研究科附属學習科学研究教育センター（RECLS）・学外協力研究員。博士（教育学）。

東京大学大学院教育学研究科後期課程単位取得退学、日本学術振興会特別研究員（DC2, PD）、東京大学大学院教育学研究科附属学校教育高度化センター助教、東京大学海洋教育促進研究センター特任講師、上越教育大学大学院学校教育研究科講師を経て、現職。

主な著書に、『學習科学ガイドブック』（共著、北大路書房）、『算数授業における協同的な學習過程の検討』（単著、風間書房）、『教師のわざを科学する』（共著、一塙書房）、『教育における評価の再考』（「授業の評価」、ミネルヴァ書房）、『児童心理学の進歩vol.60』（「授業研究への心理学的アプローチ」、金子書房）、「初めて学ぶ教職⑬ 総合的な學習の時間」（共著、ミネルヴァ書房）、共訳書に『學習科学ハンドブック第1版（培風館）』がある。



河野麻沙美・河崎美保 (2025). 授業づくりと授業研究に活かす学習科学入門 北大路書房

第1章 「学び」を探究するワケ

1.1 なぜ “How People Learn” か? 1.2 人はどのように「学ぶ」のか他

第2章 「学び」が意味するコト

2.1 獲得メタファの学び 2.2 参加メタファの学び 2.3 「学び」の理解
はどのように変わってきたか 他

第3章 今求められる「学び」

3.1 知識創造メタファの学び 3.2 知識構築の学び 他

第4章 深い学び：資質・能力の3つの柱を「バランスよく育てる」とは

4.1 熟達化 4.2 生産的失敗 4.3 メタ認知

第5章 対話的な学び：何のための対話・協働か

5.1 建設的相互作用 5.2 学習共同体 5.3 CSCL 他

第6章 主体的な学び：主体的であるとはどういうことか

6.1 自己調整学習 6.2 社会共有的調整学習 6.3 shared epistemic agency 他

第7章 何のための探究か

7.1 探究学習で理解が深まるとは 7.3 探究に協働は必要か 他

第3部 学習科学で生み出すこれからの学び 他

本書で書けなかったことを「深掘りnote」で継続執筆

さらに、学びを深めるための
『学習科学入門』深堀りnote

『学習科学入門』(北大路書房)の執筆者2人が情報発信をします。→<http://www.kitaohji.com/book/b668330.html> 本の内容が少し「タフ」なも...
もっと見る

14本

フォローする

運営しているクリエイター

記事 月別 ハッシュタグ

固定された記事

はじめまして 『学習科学入門』深堀りnoteです

【執筆後記】『学習科学入門』:3人のアン・ブラウン

オンラインイベントのお知らせ

【研究ノート 005】「問い合わせ」を「ちゃんと」設定してみた④～探究に注目～

【研究ノート 004】「問い合わせ」を「ちゃんと」設定してみた③

【研究ノート 003】「問い合わせ」を「ちゃんと」設定してみた②

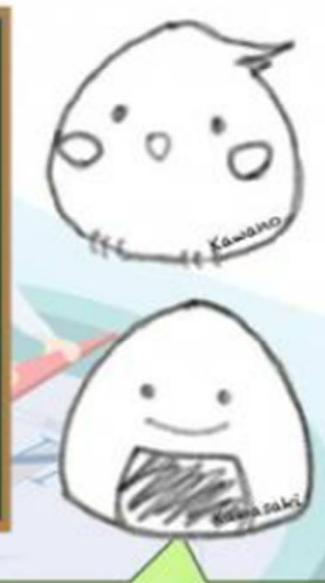
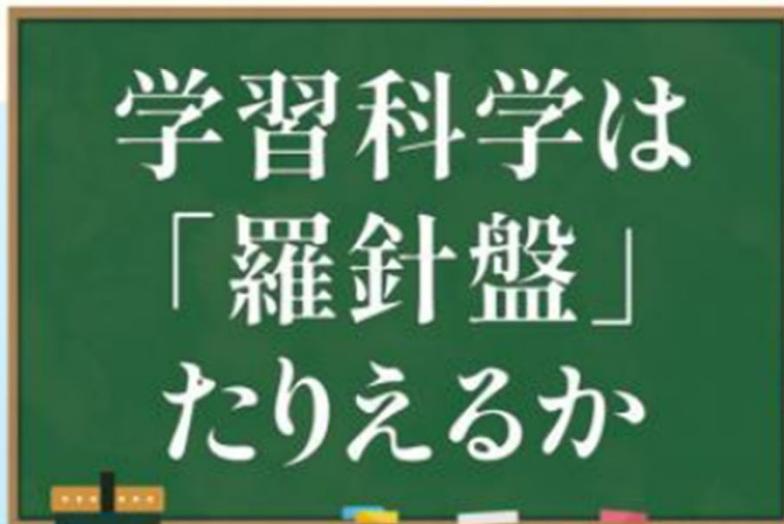
QRコード

刊行記念イベントのご案内

12/11 (木) 19:00～(Zoomウェビナー)

2025年12月11日 (木) 19時～ 『授業づくりと授業研究に活かす 学習科学入門』刊行記念イベント

対話型イベント(聞き専もOK!)



登壇者

上越教育大学大学院
学校教育研究科准教授

河野 麻沙美

静岡大学教育学部准教授

河崎 美保

授業づくりと
授業研究に活かす

学習科学入門

Introduction to
the Learning Sciences

教えることを
見つめ直したい

学習科学は学び手を知り、
学び易い環境を創り、
そこで起きる学びを見るとなどを
授業と教育の根本に置く。
その精神を余す所なく伝え、
その精神で学ぶことをめざす「授業」の書。

すべての人に
お届けする学習科学入門

水 始氏 創刊！

理論を紹介したけど、ほんとに役に立つんかな?って
気にする著者が読者の感想や意見を聞いてみたいらしい

@Zoomウェビナー 参加費無料 後日録画配信あり 申込：<https://kitaohji24.peatix.com>



それではご覧ください

授業づくりと授業研究に活かす

『学習科学入門』



本日の内容

本書は、「学習科学」を学校教育実践の入口から入る人のための入門書です。

そもそも、「学習科学とは何ぞや？」の疑問があると思うのですが、簡単に紹介しつつ、次のような内容をお話します。

- ①学習指導要領における「主体的・対話的で、深い学び」の解釈と実践への実装
に学習科学の知見を活用することを提案
- ②「探究学習」と学習科学の知見を交差させて、「探究の質」を問う



簡単に紹介：『学習科学』とは

本書第1部



「ひとの学び」を科学する How People Learn

- ・ 学びに関わる心理学・教育学・情報学他の知見を融合・統合し、新たな学びに関わる知見を生み出す学際的な研究領域→実践に意味ある学習理論の創出
- ・ 経験則に基づく教授法の推進・普及・実践への強い問題意識

マジックワード「学び」を問う：とことん、問う。

- ・ 「あの子はよく学んでる」「今日の授業はあまり学びがなかった」
- ・ →その「学び」、どういう意味？

これからの「学び」、学校で、何を・どう学ぶのか

- ・ よりよく学ぶ：知を生み出していく主体であること（知識創造メタファー）

簡単に紹介：『学習科学』とは

本書第1部



#学習科学、その「問い合わせ」の変遷

批判

How we teach?

どのように教えるか



出発点

How people(students) learn?

どのように人は学ぶのか。

学習理論

学習環境
デザイン

開発と実装
実証と精緻化

展開

What we should learn?

何を学ばなければならぬのか。

本書のねらい：学習科学で読み解く学習指導要領

本書第2部



「主体的・対話的で、深い学び」 「探究学習」に関わる巷の課題に挑戦

- ・ 「3つの柱」 「3つの学び」、次の改訂にかかる議論が始まったのに未だ混迷
- ・ 抱り所となる理論がない=経験則と声の大きさに惑わされて迷子になる「ちまた」
- ・ 教授理論（教え方）ではなく、学習理論（人はどのように学ぶのかに関する理論）で挑む

「学習科学」を実践する

- ・ 「学び」を理解するために、先行理論や知見を使い、「学び」のあり方を考える
- ・ 本書は「問い合わせ」で構成し、学習科学やその知見・理論を紹介、学習科学を思考の道具に、「主体的・対話的で、深い学び」や「探究学習」について再考することを目指す

実践と理論の交差点を見出す

- ・ 理論を深く知り、実践的課題を深く理解する（問い合わせの設定、テキストの構成など）

本書からのメッセージ：要約

本書第2部



- # 目指す学び手の姿は明確に。
- # 「主体的・対話的で、深い学び」「探究学習」を実践するのは誰か。
- # 学習科学を知り、実践するための本です。

→明日の授業の処方箋（すぐに使って、すぐに治るという魔法）は
提供しません。



学校教育実践と学習科学の交差点

- ・ 実践現場の悩み、その根源に学習科学がどう生きるのか
- ・ 優れた実践のなかに学習科学の知見との重なりが見える
- ・ 実践から理論の深化を目指したい

学習科学の限界を知り・活かす

- ・ 学術的知見：対象を絞り突き詰める営み <より〇〇・より深く>
- ・ 実践は多様で複雑なことをマネジメントする営み <より広く・より〇〇>
- ・ 授業やカリキュラムのスケールに見合わない カリキュラム>授業>学習

⇒複数の理論を用いて、日本の文脈・実践に意味のある理論を構築し、実践化までを目指す入門書

メインコンテンツ=第2部の内容と注目ポイント



「問い合わせ」の立て方
学習科学なら、このように問う
(こんな疑問を持つ)

#理論を深く知るための構成

- ・定義
- ・背景
- ・研究の実際
- ・理論・研究からの示唆

#組み合わせて考える

⇒問い合わせは自分（たち）で創る

#実践現場の課題と学習科学の解⇒コラム

第4章 深い学び：資質・能力の3つの柱を「バランスよく育てる」とは

- 4.1 熟達化
- 4.2 生産的失敗
- 4.3 メタ認知

第5章 対話的な学び：何のための対話・協働か

- 5.1 建設的相互作用
 - 5.2 学習共同体
 - 5.3 CSCL
- Column リフレクティブディスコース（省察的談話）

第6章 主体的な学び：主体的であるとはどういうことか

- 6.1 自己調整学習
 - 6.2 社会共有的調整学習
 - 6.3 shared epistemic agency
- Column 実行機能

第7章 何のための探究か

- 7.1 探究学習で理解が深まるとは
 - 7.2 探究学習をどのように設計するのか
 - 7.3 探究に協働は必要か
- Column 総合的な学習の時間における「探究の過程」を再考する

まとめ：本書の構成⇒学習科学「入門」への道筋



第1部 学習科学を「知る」

第2部 学習科学を「実践する」

第3部 学習科学で「探究する」

入門とは。

知るだけでは終わらない
実践するまでを含む

探究とは。

知を使って問い合わせる
問い合わせをもって知を生み出す

スピノンオフ：探究の「質」を問う



#学習科学における「探究学習」⇒「深い理解」と「探究の方法を学ぶ」ための学習形態

- ・深い理解：3つの柱のようなもの*、知識を知るだけではなく、使い方や使い道、それがもたらす未来や先の知識創造へと視野を広げる

*学習科学では「3つの柱」のように分けないし、3つの学びは相乗効果するものと考える

- ・探究の方法：「物事を知る」とはどういうことなのかを知る・学ぶ、ということ。その方法の領域固有性（ふさわしい方法）を知る。物事を知っていく過程に物事を知ることが存在する。
- ・Inquiry(-base) learning:問い合わせが駆動する学習過程

教えて！
溝上せんせー

#次期学習指導要領に関わる議論とその鍵（謎）ワード：探究の「質」

- ・「探究的な学び」を一層重視する とは？
- ・「質の高い探究的な学びの実現」とは？

#問い合わせ

- ① 「探究的な学び」をどのように定義するのか。定義せずに「質」を問えるの？
- ② そもそも活動原理主義から脱却できるのか/するのか⇒参照：7章コラム

学習科学は
学習指導要領と
たもとを分かつか
もしれない・・・



具体的な方向性と論点①（質の高い探究的な学びの実現）

総合を中心とした各教科等も含めた形で探究的な学びを一層重視するとともに、質の高い探究に不可欠な情報活用能力の諸要素を教育内容として明記し、一体的に向上させる方向で検討すべき（詳しくは専門のWGで議論を深める）

1. 小学校段階

- 教育課程上の位置付けとしては、情報技術の活用の可能性が最も大きく、体験的な活動が充実している総合において、情報技術の適切な取扱いや特性の理解の基礎も含めて、探究的な学びと一体的に指導できるよう、情報活用能力を育む領域を付加すべき
- その際、情報技術の学習自体が総合の目的であるとの誤解を受けないよう、「自ら課題を設定し、解決に取り組むことを通じて自己の生き方を考えていく」という探究的な学びの特質が十分に発揮されるよう配慮すべき

2. 中学校・高等学校段階

- 小学校段階での一定レベルの情報活用能力の育成を前提とすれば、総合の中ではなく、現行の技術・家庭科（技術分野）を主たる受け皿と想定し、生成AI等の先端技術を含めた適切な取扱いや特性の理解を学び、総合をはじめ各教科等での探究的な学びのプロセスに活かすべき
- こうした観点から、中学校では、技術・家庭科を二つの教科に分離した上で、現行の技術分野において情報技術をより深く、広く学ぶことしつつ、情報（D）領域のみならず、A～C領域でも情報技術との関連を強化し、全体として「ものづくり」と実生活・実社会を繋げる探究的な学びを充実させるべき（補足イメージ4-④参照）
- 高校では、小学校・中学校の系統性を踏まえて情報科の内容を充実しつつ、総合や各教科等での探究的な学びとの関連を図るべき

3. 小中高を通じて

- 約30年にわたる総合の実践の蓄積等を踏まえ、「問い合わせ」や「課題」の設定の質をはじめとする探究のプロセスの改善を含め、学校種ごとの総合の「目標」等について、発達段階を踏まえた示し方を検討すべき。その際、新たな枠組みの全体像も踏まえ、小・中学校での総合の名称について検討すべき
- 探究的な学びを適切に機能させるためには、基礎的・基本的な内容の習得も重要であるとともに、各教科も含めた質の高い探究のプロセスが基礎的・基本的な内容の習得の必要性を感じさせ、両者が往還して高まっていく等の関係について分かりやすく示すべき
- 探究的な学びにおいて、児童生徒任せになっている実践も見られることから、気付きや試行錯誤を促す適切な問い合わせなど教師が適切に指導性を発揮し、基礎的・基本的な内容を踏まえつつ、探究的な学びの質を高める授業改善を進めるとともに、論述・レポート・作品製作等の「学びの主体的な調整」が求められる評価課題を重視することも必要になる
- グループでの探究と個人探究とのバランスや興味関心等を踏まえた多様なテーマ設定の在り方について、発達段階や情報活用能力の向上も勘案し、示し方を検討すべき

宣伝

noteで「深堀り」の
記事を書いてます。

2025年12月11日（木）19時～ 「授業づくりと授業研究に活かす 学習科学入門」刊行記念イベント

対話型イベント（聞き専もOK!）

登壇者

学習科学は
「羅針盤」
たりえるか



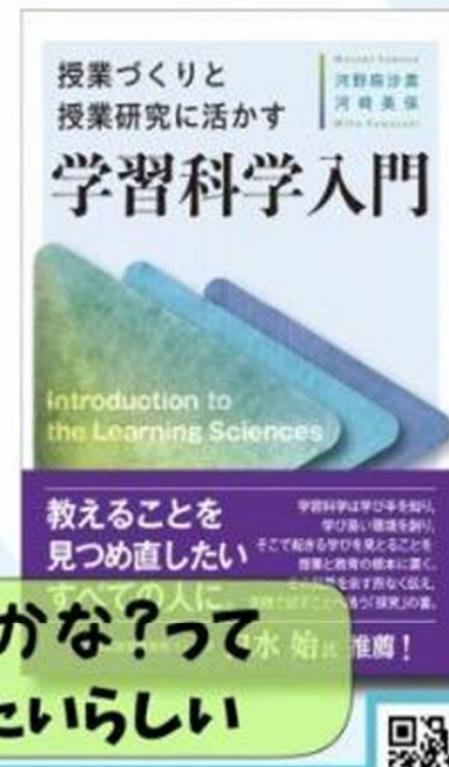
上越教育大学大学院
学校教育研究科准教授

河野 麻沙美



静岡大学教育学部准教授

河崎 美保



理論を紹介したけど、ほんとに役に立つんかな?って
気にする著者が読者の感想や意見を聞いてみたいらしい

@Zoomウェビナー 参加費無料 後日録画配信あり 申込：<https://kitaohji24.peatix.com>

